



七五三パーティー

3歳5歳7歳は、子どもの成長の節目といわれますが、そのときを健やかに過ごせたことを喜び、お祝いをする行事が「七五三」です。地域によって多少異なりますが、男子は3歳と5歳、女子は3歳と7歳にお宮参りをします。また千歳飴は、江戸時代に江戸の浅草の飴屋が考案し、長生きするようにという意味で細長くつくられたものです。

園では、「たくさんの人に見守られて大きくなったことへの感謝の思い」と、「みんながいつまでも元気で幸せに」という願いをこめてお祝いをします。



勤労感謝の日

11月23日



勤労感謝の日は、昭和23年に「勤労を尊び、生産を祝い、国民がお互いに感謝し合う日」として制定されました。よりよい社会を実現するためには、人間はお互いの勤労によって生活していること、お互いに感謝し合わなければいけないことを子どもたちにも知らせていきましょう。そして、小さいながらもお手伝いをしようという意欲を持たせることが大切です。すいこうの子どもたちは、お手伝いが大好きです。

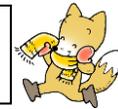


子どもがつくった運動会

朝夕は肌寒く感じ、見渡す山々もところどころ紅葉しはじめ、秋の訪れを感じます。お天気も良く、空も高く澄み渡り、戸外で活動するには、とても気持ちの良い季節となりました。

心地よい季節なので、子どもたちは、毎日朝も夕方も園庭で遊んでいます。そのあそびの中心となっているのは、先月開催された運動会ごっこです。運動会がとっても楽しかったようで、年長さんに交じって年中さん、年少さんがリレーをしたり、年中さんにバレーを教わってもらっています。もちろんそこに2歳児さんも加わって楽しんでます。まだまだ運動会ごっこは続くようです。

近年、「子ども主体の保育」とか「子どもを真ん中にした保育」ということが唱えられ、その延長で様々な行事はなくてもよいのではという専門家の方がおられます。行事は何のために行うのでしょうか。どうして子ども主体の保育を行うなら、行事は不要なのでしょう。すいこうの運動会では、どの学年も子どもたちの興味や関心を中心に考えられたプログラムでした。0.1歳さんは、小さな子どもたちの大好きな動物で構成されたダンスでしたが、初めての環境で戸惑っている赤ちゃんを抱っこする保護者の笑顔、その側で可愛く踊る1歳児さん、それを見守る保護者の笑顔はとてもすてきでした。2歳児さんは、段ボールカーに乗ろうか、タイヤを引っ張ろうか、トンネルをくぐろうか、台の上からジャンプしようかなどと、どの場面でも子どもたちが自分で選択していました。タイヤに乗っている子どももいれば、保護者と一緒に引っ張る子もいました。保護者の皆さんは、時間が経っても子どもたちのやりたいことに付き合ってあげていました。年少さんは、ダンスの振り付けを自分たちで考えていましたから、みんな自分がいと思った振り付けで踊っており、最後のきめポーズもブリッジをする子もいました。みんな自分で考えた振り付けを楽しんでいるのですから、ばらばらですが、一人ひとりの表情には、自信が溢れていました。年中さんは、先生たちを変身させるプログラムを考えていました。「何に変身するかは、しばらく内緒にしようね」と、約束をしていたようですが、Kちゃんは私に「先生は、エルサに変身する



よ。でも内緒よ。」と笑顔でそっと教えてくれました。楽しみで仕方なくて誰かに伝えたいと思った気持ちがとってもかわいくて、本当に楽しみにしているんだなと思いました。年長さんは、全て自分たちで意欲的に取り組んできました。特にリレーは、チームで走る順番や、誰が2回走かなど何度も話し合ってきたので、タッチの差で2番だったアンカーのR君は、ちょっぴり涙ぐんではいましたが、退場するときはやり切った笑顔を見せてくれました。それほどみんな真剣に取り組んだ運動会でした。乳児クラスの保護者の笑顔を見た時、最後の親子ダンスで子どもたちはもちろん、保護者の皆さんの優しい笑顔を見た時、「運動会を開催してよかった」と思いました。運動会後もお便り帳や簡単な会話の中で、「自分の子どもだけでなく、みんな大きくなっていることを感じた」とか、「自分の子どもはまだ小さいけれど、こんなふうに大きくなっていくんだなと思った」などと、我が子だけではなく、子どもの成長していく姿を実感していただく機会となったようです。見栄えを重視した行事であったり、保育者が立案して「こうでなくてはならない。」などと子どもたちに押し付けるような進め方をすれば、子どもたちのはじける笑顔が見られる行事ではなくなります。すいこうの行事は日頃のあそびの延長線上にあり、子どもたちがやりたいことを話したり、考えたりする、まさに「子ども主体の行事」ですので、子どもたちの笑顔とやる気が満載です。

現在もリレーごっこなど続いています。並行して、わくわくランド（作品展）に向けて、子どもたちは取り組んでいます。年長さんの「こんなの作りたい」という思いを中心に、アトリエを使ったり、異年齢で取り組んだり、子どもたちは、大忙しで意欲的に取り組んでいます。わくわくランドでも子どもたちのはじける笑顔と、「僕たちが作ったんだよ」と自信に満ちた姿、それを暖かなまなざしで見守る保護者の皆さんの笑顔が見られることと思っています。この姿がある限り、すいこうの行事は進化しながら続いていくのです。これからも保護者の皆様のご理解と、笑顔での見守りをよろしくお願い致します。

園長 上原 玲子

すいこうわくわくランドは今年も楽しいよ！！



今年度は、作品展だけではなく、バザーも楽しんでいただきたいと思います。給食室自慢のカレーや炊き込みご飯、子どもたちの人気メニュー、チキンセットなどをご賞味いただければ幸いです。おいしいものを食べると、笑顔の輪が広がりますね。



脳の発達に食習慣が影響するそうです

10月24日の中国新聞に興味深い記事が掲載されていました。京都大学の明和政子教授らのチームが国際学術誌に、感情のコントロールが苦手な幼児は、特定の腸内細菌を多く持つことが分かったというものです。『腸内細菌は、食習慣が影響し、3歳から5歳までに基盤が形成され、脳の発達に影響する可能性がある。全国の3、4歳児を対象に行ったアンケートで「かんしゃくもちで、怒りを爆発させる」とか、「気分が頻繁に変化する」といった感情制御に関する項目で「よく見られる」と回答した幼児は、特定の腸内細菌が多く、うち半数以上がカボチャなどの緑黄色野菜の摂取頻度が少なかった。』そうです。

だからと言って、すいこうでは無理やり食べさせるようなことはありませんが、このようなデータも意識しながら食育活動を通して、何でも食べたくなるような働きかけをしていきたいですね。

